

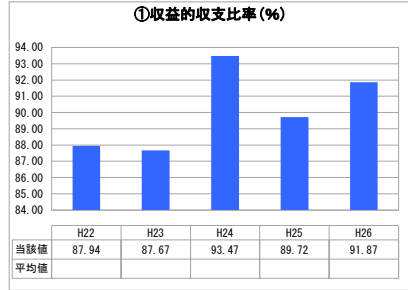
経営比較分析表

神奈川県 海老名市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	公共下水道	Ab
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	95.51	91.24

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
130,077	26.59	4,891.95
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
124,378	12.70	9,793.54

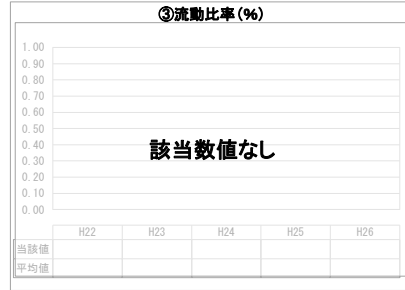
1. 経営の健全性・効率性



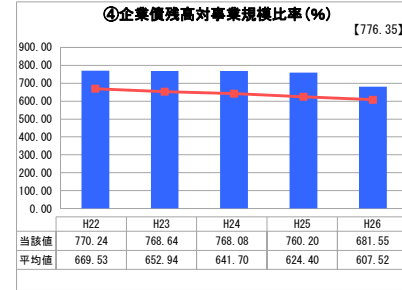
「単年度の収支」



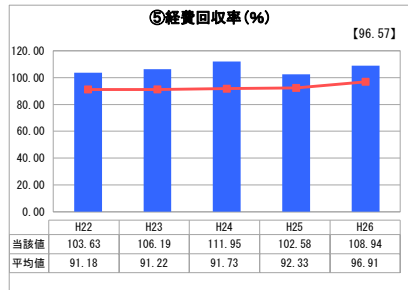
「累積欠損」



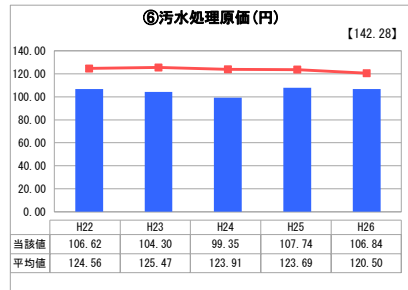
「支払能力」



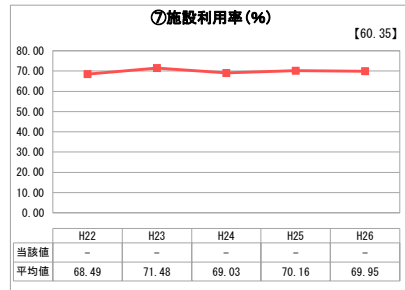
「債務残高」



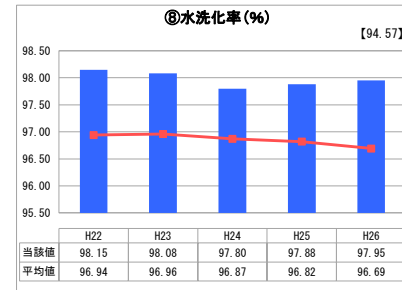
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

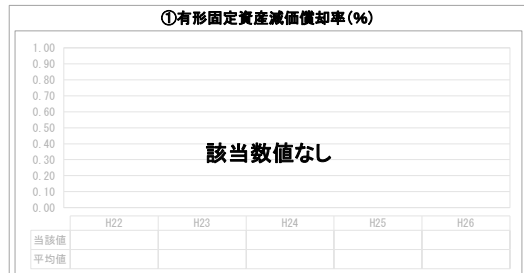


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

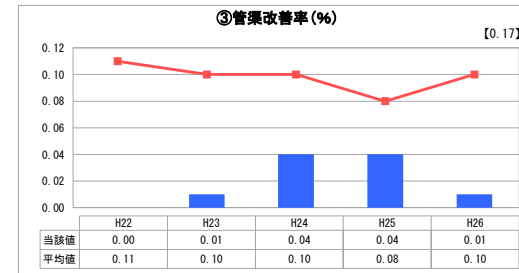
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

企業債残高対事業規模比率は類似団体内と比較し高い水準になっているが、収益的収支比率は概ね改善傾向である。また、経費回収率は100%以上で、汚水処理原価も類似団体内で低い水準となっている。現時点の指標からは比較的健全な経営といえる。しかしながら、流域下水道の管理負担金を含めた維持管理費は増加傾向であり、水洗化率は改善傾向ではあるが、水洗化率向上への取組や料金改定等を含め経営改善に向けた取り組みが必要と思われる。また、市街化調整区域内の整備は概成していることから、費用対効果を考慮する必要がある。

2. 老朽化の状況について

管渠改善率については、類似団体平均値に比べ低い数値となっている。供用開始から約40年が経過し施設の老朽化が進んでいくことから、今後、長寿命化計画等に基づき計画的に施設の更新を進める必要がある。

全体総括

現状では、比較的健全な経営といえるが、今後施設の老朽化が進んでいく状況を踏まえると、更新等に関する管路や処理場への投資が必要となる。このため、維持管理計画を作成し維持管理費の削減を検討します。また、平成20年10月に降料金改定を実施していないことから見直しの必要性について慎重に検討していきます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。